

「語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和を実現しよう」



2023連合 平和オキナワ集会

第1部 基調講演

テーマ：「日米地位協定と沖縄」

講師：山本章子氏

(琉球大学人文社会学部国際法制学科准教授)

第2部 平和式典

那覇文化芸術劇場「なはーと」において開催された、連合主催の「2023平和オキナワ集会」へ参加しました。

第1部は、山本准教授より「日米地位協定と沖縄」をテーマに講演を受けました。第2部の平和式典では、参加者全員で黙とうをしたのち、芳野会長、東盛連合沖縄会長のあいさつ、沖縄県の来賓あいさつ、国会議員の来賓紹介を受け、連合沖縄から連合広島へピースフラッグが手渡され、最後に平和アピールを採択して集会は終了しました。



ピースフィールドワーク

Cコース（戦跡コース）に参加

連合沖縄の青年委員会が「糸数アブチラガマ」「平和祈念公園」「ひめゆりの塔」「魂魄の塔」を当時の状況や建設の経緯など丁寧に説明してくれました。



系数アブチラガマ

南城市玉城字系数集落にある全長270メートルの自然洞窟（ガマ）。

沖縄戦で住民の避難場所、陣地として利用され、のちに南風原陸軍病院の分室として使用された。軍医、看護師、ひめゆり学徒隊が配属され、600人以上の負傷兵で埋め尽くされた。現在は、平和学習に役立てる追体験の場になっている。

ひめゆりの塔

沖縄県立師範学校女子部と沖縄第一高等女学校の生徒たちによって編成された看護部隊「ひめゆり学徒隊」。彼女たちは軍とともに最後まで行動し、献身的に看護活動にあたった。

激戦の中で多くの生徒が砲弾に倒れ、あるいは自決を余儀なくされた。戦後まもなくの1946年4月に第三外科豪跡に両校の戦没者が祀られた。

魂魄の塔

沖縄戦の後、住民の手で建てられた最初の慰霊塔である。

当時、各地に遺体が散乱している状態だったが、米軍管理下で遺骨収集は許されていなかった。そんな中、当時の真和志村長・金城和信氏が米軍と交渉、許可を得て、住民による遺骨収集が始まる。1972年2月、国立戦没者墓苑が整備されると、遺骨の殆どが国立戦没者墓苑に移動、合祀されている。「魂魄」の言葉には、沖縄で亡くなられた人々と共に生きていくという決意が込められている。

平和祈念公園・沖縄県平和祈念資料館

沖縄復帰記念事業の一環で、沖縄戦跡国定公園の中心として整備された。

毎年、6月23日「慰霊の日」には沖縄全戦没者追悼式が催されている。

沖縄県平和祈念資料館は戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人びとに沖縄のこころを訴え、もって恒久平和の樹立に寄与するため設立された。館内では「住民の視点で捉えた沖縄戦」を展示理念とし5つのテーマからなり、沖縄戦関係実物資料、写真パネルをはじめ、145人の沖縄戦体験者の証言文、約500人の証言映像などから沖縄戦の実相を明らかにしている。

事務局の感想

今回の平和行動に参加して、平和について今一度考える機会を得た。

現在も世界では戦争や紛争が起きています。特にロシアによるウクライナ侵攻は未だに終息が見えず、非常に残念です。

戦争経験者が高齢化していく中で、戦争経験のない私達が、日本の歴史を伝え平和を訴えなければなりません。今回、見て聴いて感じたことを、身近な家族、職場の方々など、一人でも多くの人に伝え、世界が平和になるよう活動を続けていきたいと思ひます。

